

No. 24

# 研究所だより

発行

2010年7月1日

 明治学院大学  
 社会学部附属研究所

〒108-8636

東京都港区白金台1-2-37

TEL (03)5421-5204~5

所長 北川 清一

## 新所長に任命されて想うこと

所長 北川 清一



この度、野沢慎司所長の任期満了に伴い社会学部附属研究所

から選出・任命されました。白金キャンパスの再開発が進み、古木に囲まれ旧健康相談所と並ぶ建物の中にあつた研究所も移転となり、その様相は大きく変貌することになりました。しかし、社会学部の、とりわけ社会学部附属研究所の有為な人材（スタッフ）を育ててきた場としての役割は担い続けているものと想います。社会学部附属研究所からは、私が本学に勤務して以降、濱野一郎先生、根本博司先生、中野敏子先生、遠藤興一先生という学科の「看板教授」が所長に任命されてきました。ソーシャルワークに精通され、学会をリードされるお立場にあつたからこそ、研究所の伝統を受け継ぎながら社会的貢献のあり方としてお示し下さった計画

は、時代の風を感じ取られた斬新なものであり、お示しいただいた

内容は実に刺激的であつたことを想い出します。このような先輩教授の足跡を知るが故に、役割を引き受けるには相応しくない自らの器のサイズに驚愕しながら、学部への貢献、社会への貢献を如何に果たすかを研究所スタッフと共に検討しながら運営を進めて行きたいと想います。

人びとの「暮らし」の諸相を解析し、課題解決型の研究方法をとりながら、地域住民と大学の連携のあり方を模索してきた当研究所も、ここ数年、人（地域住民）との交わり方に大きな変革が見て取れます。調査研究部門は、今年度から社会学部・社会学部附属研究所として取り組む新たな特別推進研究プロジェクトに着手します。社会学部と社会学部附属研究所という学問方法の違い（垣根）を超えて人びとの「暮らし」に科学の光を当てようとする調査研究が、大学と人びとの間を「橋渡し」する新たなスタイルについても提示頂けるものと期待します。

相談研究部門にあつては、社会学部の支援を市民として活用する際のスタンスを「主体形成」に求め、大学が、あるいは社会学部の専門職がそこに如何に介在できるかを検討してきております。明治学院大学自身が、如何に社会の資源として人びとの「暮らし」の中で機能できるかの模索が続いていきます。当初は違和感を覚えられた言葉遣いのようにありましたが「何かお役に立てることはございますか」と語りかけながら地域住民に併走する研究所ソーシャルワーカーの取り組みに、時代の扉が開かれる希望を感じ取ってみたいと想います。

社会学部学内学会活動を支援する学内学会部門は、学会創設二〇周年を迎える本年、卒業生―在学生―教員の新たな連携と協働のあり方を提言いただくことを期待します。大学における学内学会の活動は、構成員各層の知の水準を表すと教授会場で発言されたのは誰であつたのか。二〇〇九年は、それを振り返るに良い時間の経過のように想えます。

教授会から与えられた任期は二年です。ご支援をお願い致します。

## 研究所各部門から

### 調査・研究部門

調査・研究部門主任を務めさせていただきます、浅川です。

社会学部付属研究所では、調査・研究部門のスタッフを主軸として、本年四月より、特別推進プロジェクトをスタートさせました。テーマは「現代日本の地域社会における「つながり」の位相——新しい協働システムの構築に向けて——」です。人と人との関係のあり方、すなわち社会関係のあり方は、各々の地域社会において異なっていることが予想されます。そこで現在の地域ごとに異なる「つながり」の位相」を把握する研究を行うよう準備を進めております。プロジェクト全体としては、再都市化のフェーズに移行した「都心地域」と、急速に高齢化が進行する地域社会を内包するようになった「郊外社会」と、地域社会の維持もままならなくなりつつある「過疎地域」という、日本の典型的な三種の居住地域を研究対象とする予定であります。本年はまずは「都心地域」としての港区を対象として研究を進める予定です。

「つながり」の位相」を把握するという記述的な研究の蓄積を経

たうえで、次の段階としては、それぞれの地域社会が必要とされる、その意味では「新しい」、協働システムがどのようなものであり得るかを、それぞれの地域社会ごとに提示するための研究へと深化させる予定です。かつて、都市社会学者の倉沢進は、生活課題の処理システムにおける、「相互扶助システム」から「専門処理システム」への変化に都市社会の特徴があることを指摘しました。しかしながら、全ての生活課題の処理を「専門処理システム」のみで行う社会が望ましい社会であるわけではありませぬ。むしろ、「相互扶助システム」と「専門処理システム」を総合化する新しいあり方としての「協働システム」が、現代社会においては志向されています。それがどのようなものなのか検討し、提示していきたいと考えております。一年間の調査・研究活動で、少しでも多くの知見が得られるよう、尽力したいと思っております。

調査・研究部門主任  
浅川 達人

### 相談・研究部門

本年度主任となりました、社会

福祉学科の深谷です。二〇〇七年度所属でしたが、数年ぶりのリターンとなりました。相談・研究部門はベテランの杉山先生、新人の明石先生、ベテランソーシャルワーカーの平野さん、新しいソーシャルワーカーの大橋さんと新旧混じったよいバランスのメンバー構成となりました。

例えば二〇〇七年に初めて地域こぞって子育て懇談会に出席した時、地元の方から面と向かって、「子育て支援なんて、贅沢だ」と思う。誰でも子育てなんて女性がかなして来られた仕事じゃないか。それを支援するだなんて。」と言われたずしりと重い一言が、この部門の主な事業である「子育て支援」との私の個人的な出会いでした。私はこの出会いを個人的には生かしきれない感がありますが、リターンして来て見ると、相談・研究部門がこの一言をきちんと正面から受け止めて、取り組んで来られた事にとても感心しました。(ヒトゴトのようですが…)今年も、この問題意識をダイレクトに生かした市民講座「子育て支援は贅沢か その三」(法学部の両角先生をお迎えして七月一〇日に行われる)を皮切りに、一月に行われるメイン事業「地域こぞって子育て懇談会」に向かつて、大変意欲的に、ネット

ワーク強化や参加呼びかけのために行われる新規事業「子育てネットワーク会議(仮称)」(七月二十三日)「子育てフェスタ」(九月予定)などが企画されています。また、休止していた活動スキルアップ講座も二回、子育て懇談会企画メンバーを対象に予定されています。この取り組みの中に自ら身を置き模索しながら、取り組みが港区という地域に、新たな「つながり」を生み出し、創り上げていくのを楽しみに見守る一年にしたいと考えています。

相談・研究部門主任  
深谷 美枝

### 学内学会部門

本年度、付属研究所の仕事を担当することになりました。かれこれ二〇年近く前になりますが、白金キャンパス再開の一環として研究所が現在の場所に移転することが決定したさい、当時の所員の方々と研究所内部の間取り等について管財部の試案を検討した記憶があります。その後も、調査研究部門の役割を分担していた年度があったかも知れませんが、あまり記憶が鮮明ではありません。いざれにせよ、研究所の活動への参加は本当に久しぶりの気がします。どうぞよろしく願います。

まだ二カ月しか経っていませんが、研究所について以前の自分の記憶と比較して感じることは何と云っても組織が大きくなり、役割が制度化され、活動が多彩に展開するようになったということです。このことはとくに調査・研究部門と相談・研究部門の活動に言えることでしようが、学内学会部門も、この数年の充実も見ざるべきものがあります。学生部会だけを例にとっても、毎年の講演会や研究発表会のほかに、社会学科の「ゼミサロン」、福祉学科の「一年生のためのお助けプロジェクト」などの企画も順調に推移しているようです。今後のいっそうの発展が期待されております。

ところで本年度は学内学会部門が発足して二〇年目に当たります。「社会学部友の会」を内部に継承して発足するには、卒業生からの異論もふくめ、いろいろと論議が交わされたことを懐かしく思い出します。節目の年ですので、あまり派手ではなくても本年度の後半には何かの行事なり企画が実現できたらと考えております。もちろん「Socially」の二〇号にも特集記事などを織り込むことができるよう、六月二十六日の総会を経てご意見を集約したいと考えておりますので、皆様、お知恵をお貸しください。

すでに五月十五日には社会学部対抗スポーツ大会が開催されました。昨年より参加学生は減ったようですが、それでも十九チーム、約二〇〇名が競い合い、親睦の輪を広げていったようです。

（学内学会部門主任  
松井 清）

## 新任あいさし

はじめまして。二〇一〇年度に、相談・研究部門の所員に任命いただきました社会学部福祉学科の明石留美子です。私の博士論文は高齢者福祉ですが、日本社会の少子高齢化が急速に進むなか、高齢者ばかりでなく、子どもにも目を向けて研究活動をしていきたいと考えています。そのようななか、子育て支援にも取り組む当部門に迎えていただき、大変うれしく思っています。私自身、子育て中であるため、今後、子育て中のお父様、お母様方と関わっていただけることも楽しみに一つです。これから、研究所の所長、主任、所員の方々から研究所の活動について学び、私がこれまで培ってきたことを活用して積極的に参加させていただきたいと考えています。

（明石 留美子）

前年度から引き続きの研究所

員、〇年ぶりの学内学会担当となりました。〇年前と同じ会計担当ですが、現在は佐々木さんという強い味方を得て運営されているので、安心して任にすることができました。学会としての機能が充実するよう、裏方として貢献できれば幸いです。

（大瀧 敦子）

四月より濱田さんの後任として、相談・研究部門のソーシャルワーカーとして着任いたしました。子育て支援、地域での取り組み等の事業にかかわらせていただくことをとても楽しみに、また、ソーシャルワーカーとして、多くのことを学ばせていただきながら、精進していきたいと思えます。まだまだ未熟ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

（大橋 未緒）

相談・研究部門の所員として、一年ぶりに研究所の活動に参加することになりました。相談部の活動の中でも、港区立子ども家庭支援センターと協同して行った「港区地域こぞって子育て懇談会」は、回を重ねる度に確かな活動になっていと感じます。子育てのためにはどのような支援が必要なのか、懇談会での声や調査から地域社会のニーズを知り、研究所の皆様と共に学び、そして活動した

いと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

（杉山 佳子）

研究所も随分久しぶりな気がする。が、数えてみると四年ぶり。結構、最近だ。と、『魔の山』でハンスが語ったことを思い出す。退屈な時間は、そのとき長く感じても後からは短く感じ、逆に、何かに熱中している時間は、そのとき短く感じても後からは長く感じる、と。ならば、この四年間それなりに充実していたか。うーん、と思わず唸ってしまう。今回は学内学会の担当だ。学生たちと話している、かつての学生たちの顔が思い浮かぶ。それこそ十年ぶりに違いないが。

（西阪 仰）

今年度は久しぶりに社会学部付属研究所の活動に関わることに始まり、学内学会も経験したことがありますが、その時とは学内外の情勢が随分と変化したように思えます。今回は企画担当で参画です。近年の卒業生諸子、学部学生のニーズを的確に読み取って交流の場となり、かつ知的好奇心を刺激する良い企画を立案したいと思っています。

（村上 雅昭）

市民講座報告

二〇〇九年度は、「つながりの輪をひろげたいなあ、まちに顔見知りがあると安心できるね」のテーマで港区地域こぞって子育て懇談会（以下、懇談会）を開催しました（港区立子ども家庭支援センター共催）。企画メンバーのママ・パパたちは、「子どもをもって感じた地域のつながりの大切さ」を各々

の言葉で発信し、地域のつながりに先駆的に取り組む十組の皆さんにも来ていただきました。既に存在する「よさ」をもつ居場所やイベントをもっと増やしたい、懇談会でできたつながりも大切にしたい、町会等・商店会の方々とつながりももちたい、パパたちも子育てや活動に参加できるといいなあ等々、いくつかの課題や要望を整理し、次へつなげることに

第24回社会福祉実践家のための  
臨床理論・技術研修会

「地域福祉実践の方法と課題」

日時：2010年10月16日(土) 10:00~17:00

① 基調講演 10:00~11:45

② ワークショップ 13:00~17:00

会場：明治学院大学白金キャンパス

基調講演：「地域福祉実践の方法と課題」

講師 岸川 洋治（横須賀基督教社会館館長）

ワークショップ：

A：地域包括支援センターの地域福祉実践について考える（仮題）

講師 川向 雅弘（横浜市下和泉地域ケアプラザ所長）

コーディネーター 杉山 佳子（本学社会学部教授）

B：生活に困っている方への相談支援から地域福祉実践を考える（仮題）

講師 藤田 孝典（特定非営利活動法人ほっとポット代表）

コーディネーター 深谷 美枝（本学社会学部教授）

C：ボランティアの受け入れから地域福祉実践を考える（仮題）

講師 妻鹿ふみ子（特定非営利活動法人日本ボランティア

コーディネーター協会代表理事／

京都市光華女子大学教授

（本学社会学部附属研究所

コーディネーター 平野 幸子（ソーシャルワーカー

連絡先

明治学院大学社会学部附属研究所

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp

TEL 03-5421-5204・5205 FAX 03-5421-5205

二〇一〇年度

社会学部附属研究所

プロジェクトの紹介

★一般プロジェクト

☆会話分析上級者セミナーの企画・

データ群の取り扱いに関する会

話分析スキルの開発

☆戦後日本の労働問題研究——学

説史・思想的探究

☆健康とは何か——地域における

「病いの語り」から

☆キリスト教専門職によるスピリ

チュアルケア

（代表 深谷 美枝）

（代表 柘植あづみ）

（代表 深谷 美枝）

☆デンマーク・ボランティアセク

ターの実際——「社会的企業」

の活動に着目して

（代表 坂口 緑）

☆相談支援における「生活実態把

握」機能研究

（代表 中野 敏子）

★特別推進プロジェクト

現代日本の地域社会における

「つながり」の位相——新しい

協働システムの構築にむけて

二〇一〇年度社会学部附属

研究所スタッフの紹介

所長

北川 清一

調査・研究部門主任 浅川 達人

相談・研究部門主任 深谷 美枝

学内学会部門主任 松井 清

所員 明石留美子

石原 俊

大瀧 敦子

杉山 佳子

西坂 仰

半澤 誠司

村上 雅昭

研究調査員（調査・研究部門）

石井大 一朗

副手 大橋 未緒

研究調査員（調査・研究部門）

平野 幸子

教学補佐 平野 美佳

事務担当 渡部 文子

学内学会部門事務担当 佐々木 敬子